

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年2月29日

学校法人念法学園

幼稚園型認定こども園念法幼稚園

1. 本園の教育目標

『げんきなからだ・すなおなこころ・感謝のきもち』を園訓とし、よりよい環境の中で、直接的・間接的体験を積み、生涯にわたる発達の基礎を培う。

「心の教育」を主とした、心情・豊かな感情・意欲・態度など教育の根本とし、「生きる力」の育成に力を注ぎ、世の中のお役に立つ立派な人に育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標を重視する中で保育内容・環境を見つめ直し、より子どもの育ちに繋げるとともに、園生活での幼児一人一人の成長を保護者にわかりやすく伝える工夫をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育環境の充実を図る	C	・各クラスで子どもの興味や関心から考えた環境づくり ・環境チームが季節に応じて園庭環境を構成する ・園庭に様々な素材を準備する
2	保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る	C	・ドキュメンテーションの配信 ・学期ごとに各クラスの保育記録発表 ・園庭開放や参観、懇談時の保護者との対話
3	教育の質向上のために教職員の園内・園外の研修を充実する	B	・外部講師による園内研修を計3回実施 (特別支援2回・子ども理解) ・園内研修(振り返り・保育者の役割・同僚性を高める研修企画) ・公開保育(ECEQ®)への参加 ・園見学(あけぼのほりえこどもえん) ・他園との合同研修(計2回) ・非正規職員の園内研修(保育のふりかえり)
4	組織運営	C	・業務の役割分担 ・職員配置(シフト表での管理) ・新体制への移行
5	安全管理	C	・その他マニュアル作成 ・不審者対応訓練、避難訓練

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
C	今年度より園長が変わり新たな体制となったが、環境構成や子どもとの関わりなど前年度と同様の課題がまだまだみられた。研修や園見学を通して、環境構成への課題意識が高まり取り組む姿がみられたが継続した取り組みとはならなかったように感じる。新たな取り組みとして保育記録発表を行った。保護者に普段の子どもの様子を話すことで自身の保育を振り返る良い機会となったが参加者が少なかった学年もあるので次年度は、時期や発表方法に工夫が必要である。教員の情報共有や

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

◎「保育環境の充実を図る」

子どもの興味や関心から考えた環境づくりが子どもの遊びに変化を与えた。保育室の環境は各クラス担任が考えて構成するので、クラスごとに違いがみられた。園庭環境は、環境チームで話し合い構成することで、新たな遊びや表現がみられた。今後は、保育者の子どもを見取る力、保育者間の連携を高めていくことに取り組むことがより良い環境づくりに繋がる。

◎「保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る」

昨年と同様にドキュメンテーションで普段の子どもの姿を保護者に共有した。また学期ごとに各クラスで保育記録発表を行った。また、クラスだけでなく預かり保育担当でホールにドキュメンテーションを張り出し預かり保育での子どもの姿を共有した。保育の可視化を保育者のふりかえりに繋がるように取り組む必要がある。

◎「教育の質向上のために、研修を充実させる」

園内研修は、昨年と同様に外部講師を招いて、特別支援・子ども理解など課題に対する研修を実施することができた。また研修チームで考えた園内研修は、自分たちに今必要な内容を実施することで研修企画側にも学びがあった。

保育者全員で園見学することで他園の良い事例を参考に自園に取り入れる姿もみられた。研修で学んだことを実践できてはじめて学んだことが活かされるが、まだまだ実践しきれていないこともあるので引き続き実践できる環境を整えていくことに取り組む。

●研修実績

(園内研修) ・特別支援研修 2回 ※外部講師

・子ども理解 ※外部講師

・学期の振り返り

・保育者の役割

・同僚生を高める園内研修を考える

(合同研修) ・コミュニケーション研修

・子どもたちの思いや意見を引き出すはなしあいの在り方とは

(外部研修) ※一部掲載

_(一社) 大阪市私立幼稚園連合会主催研修会

「幼稚園教諭としての喜び」「保育と集団育成」

「子どもの障がいとその対応」「多文化共生保育」「乳幼児保育」

「子どもの育ちを支える保育環境」「保護者に寄り添うために」
 「絵本の読み聞かせのポイント」「子どもの発達と健康」
 「小学校との連携・接続」「幼児期の造形表現」

（一社）大阪府私立幼稚園連盟主催研修会

「DIY入門」「ファシリテーション・リーダーシップ連続研修」「大研大会」

公開保育（ECEQ®）

「せんりひじり幼稚園」「住之江幼稚園」「今川幼稚園」「神童幼稚園」

公開保育

「住之江幼稚園」

その他

「全日幼児教育実践学会」「園見学あけぼのほりえこどもえん」

「大私幼第31次プロジェクト」「大私幼ミニプロジェクト」

◎「組織運営」

シフトによる業務管理を進めることで、昨年より業務の見える化や適切な職員配置をすることができたが、業務負担に偏りがみられた。新体制、年間行事の見直しなどで準備不足な部分があった。また情報量の増加、個別対応など情報共有・共通理解に多くの課題がある。

◎「安全管理」

園でも大きなケガや事故に繋がる場面もあったので、安全に対する職員に意識を高める。安全マニュアルや災害時のマニュアルの見直しを進めることができた。また、保育中の保育者間の連携のために導入したインカムは、緊急時にも活用できる。今後は、避難訓練などのふりかえりで出た課題をマニュアルに反映し、共通理解が必要である。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりを増やすために縦割りのチームをつくり定期的に取り組む。 ・環境への各保育者の意識を高める。 ・ECERSを活用した環境づくり
2	保育の可視化	<ul style="list-style-type: none"> ・保育記録発表の充実 ・ドキュメンテーションを保育のふりかえりや情報共有の資料として活用する。 ・子ども一人ひとりの育ちの共有。
3	研修の充実	教育の質向上のために、研修計画及び新任教育課程を作成し、園内研修の充実を図る。また、園外研修へ積極的に参加できる体制を整える。
4	組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、学年会議の活性化を図る ・職員間の情報共有を徹底する。 ・情報共有の見直し ・明確な運営・責任体制を整理する。
5	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、園運営に必要な安全マニュアルの改善を図る。 ・AEDなど応急措置研修
6	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流を増やす。 ・インクルーシブ教育の実現を目指す。

6. 学校関係者の評価（保護者3名・卒園児保護者2名・理事1名）

- ・お片付けパトロールを年長が全園児に知らせ、積極的にお片付けする姿が良かった。
- ・保育の可視化という点で、園の取り組みをもっと発信しても良いと感じた。
- ・保育記録発表の参加者が少ないことは残念ではあるが、良い取り組みなので継続して欲しい。
- ・教職員の研修への取り組みをもっと発信する方が、保護者に保育の質向上に取り組んでいることが伝わると思う。
- ・組織において、悩み事や困りごとを共有できる環境（ホワイトボードの設置など）があると良いのではないか。
- ・安全管理については、災害時の引き渡し条件の事前設定がある方が良い。
- ・子ども同士のトラブルで保護者の間に入るのは、難しい。教職員の負担になりすぎないようにルールづくりが必要。
- ・飛び出し防止策として、道路沿いの門にスピーカーで注意を促す音声を流すのはどうか。
- ・保護者同士の交流できる場が増えて欲しい。